

浅田さん家のたまねぎ

兵庫県・淡路島



淡路島でもっとも玉ねぎの栽培が盛んな南あわじ市は、風通しや日照時間の長さなど玉ねぎを育てるのに適した土地です。そんな土地で半年以上かけてゆっくり育ち、独特の甘みのある「淡路島玉ねぎ」。一度食べたならその甘さに驚かれるでしょう！今回は、そんな「淡路島玉ねぎ」を愛情たっぷり育ててくれている「淡路島あさだ農園」さんに、体験研修として収穫のお手伝いをしてきました。

浅田さんは、大阪よどがわ市民生協の元職員で、消費者と生産者の農業交流も積極的に取り組んでいます。『玉ねぎ』の箱詰め作業では、1つ1つ玉ねぎの軸中心にズルケ(傷み)がないか？キズがないか？1玉の大きさを計量器で計りながら、形に問題ないかなどの点検を行なってから、箱づめをしていねいに出荷されていました。

研修に参加した職員の声



よどがわ市民生協で組合員さんにお届けする「七宝早生」は5月のみ収穫すると聞き、驚きました。旬の時期に注文数を全て良い品質で出荷する大変さと、より良い品質を追求し続けている浅田さんの姿勢に感銘を受けました。

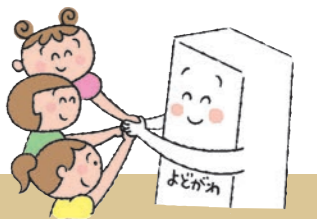
直接消費者へ販売していることを大事にされているのを知り、生協職員として、この玉ねぎを知ってもらうことと、一次産業の現状も一緒に組合員さんに伝えることが重要だと思いました。

産地研修に行ってきました①

浅田さん家の淡路島玉ねぎ



よどまるレポ-ト



002 どうして「顧客」ではなく「組合員」なの？

協同組合は、共通の目的をもった人たちが、その目的を達成するために組織した相互扶助組織です。協同組合がその目的に沿った事業を実施し、各組合員がこの事業を利用することができます。

例えば、ある商品を必要とする人たちが集まって、協同組合を設立したとします。

株式会社と同様、事務所を借りる、機械や原材料を購入するなどお金が必要となり、協同組合を組織

する人たちは必要なお金を出し合います。この協同組合は、組合員が必要とする商品を調達して、それを組合員のために提供することが事業の目的となります。なお、出し合ったお金のことを出資金と言い、お金を提供した人たちのことを組合員と言います。

協同組合は、組合員全員が出資額に関わりなく1人の権利で組合の運営に参加し、組合の方針を決め、これを実践するという組合員による経営への直接参加が原則で、この部分が「顧客」ではなく「組合員」という理由です。



頭の体操クイズ

ミスターKによる

家族みんなで考えてみてね！

問題：

○に入る漢字は何でしょう？

こたえは1番うしろのページにあるよ！

小○中人親

テレビでよどがわ市民生協のCMするねん!!

ぜひ見てな～



コープきんぎ7生協(近畿2府3県の生協)で、各生協の取り組みをCMでお伝えすることとなりました！よどがわ市民生協のCM内容は、産直登録バナナについてです！

【CM内容は…】

「安全・安心なおいしいバナナがほしい！」そんな、組合員の声から始まった産直登録バナナは、来年で30周年を迎えます。栽培時無農薬のバナナをつくるため、タイの生産者と協力し、何度も話し合い、試行錯誤を重ねてきました。その『つながり』は、今も続いています。豊かな香りとさっぱりした甘み特徴のバナナです。

届けたいのは、持続可能な明日です。

CM放映期間

2022年10月放映予定

※放映期間は確定次第よどがわ市民生協のホームページでお知らせします

地域とともに

「楽しい場所」に子どもは集まる「楽しませる」ではなく「一緒に楽しむ」

2016年からはじめた「にしよど子ども食堂くるる」は毎回会場がいっぱいになる90人近くの子どもたちが集まります。

ご家庭によっては凝ったことができない場合もあるクリスマスや節分なども「くるるの中でなら、もっと楽しく、全力で楽しめるイベントにしていけるね」という思いから始まりました。さらに「こんな体験をさせてあげたい」と流しそうめんやスイカ割り、小学校の体育館を貸し切った段ボール工作、地域全体を巻き込んだ謎解きイベントを開催するなど普段ではなかなかできないようなイベントをしてきました。



初めての体験をしたであろう子どもたちの、わくわくした笑顔がとても印象的で、自分たちの『楽しい』が子どもの『楽しい』にも繋がり、どんどんやりたいことが増えていきました。



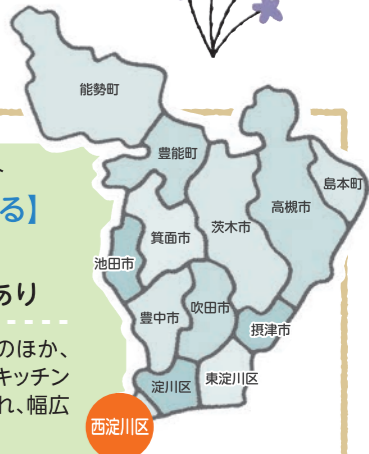
今回は…

よどがわ市民生協が食材提供をしている団体紹介
団体名：【特定非営利活動法人くるる】

住所 西淀川区出来島3丁目3-2-1207

連絡先 090-2386-8799 Facebook あり

西淀川区に拠点を置くNPO法人で、子ども食堂のほか、学習支援活動のくるる教室、食育支援のくるる☆キッチンなど、多世代交流イベントや防災活動にも力を入れ、幅広く活動しています。



「家以外の居場所に」

楽しいことが増えると、学校には行けないけど、『くるる』の活動なら参加できるという子が増えてきました。また、教室では集中できなくても、『くるる』に参加してる時間は集中して参加できる子もいます。さらなる居場所づくりをめざして、生きる力を育むことを目的に「くるる☆キッチン」をスタートさせました。

「くるる☆キッチン」では子どもたちと一緒にご飯を作って食べます。楽しみながら作れ、家で一人の時間でも作れるような簡単な調理工程を心がけ毎回メニューを考えています。

自分で作りあげることによって自信が付き、自然と人と関わることが増えていきます。子どもたちからすれば楽しいから参加していますが、こういった居場所活動の積み重ねが結果的に人としての成長につながっていくのだと思います。これからも子どもたちが楽しいと思えるような居場所となれるよう取り組んでいきたいです。

